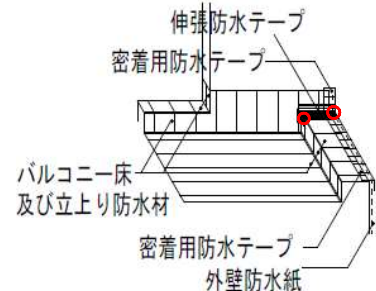
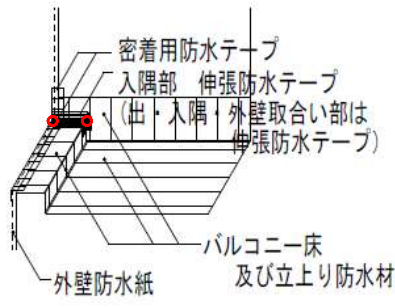
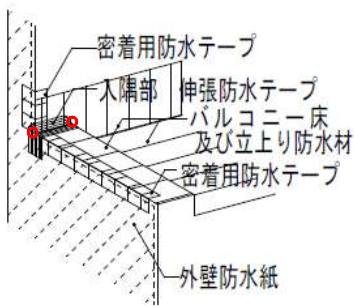
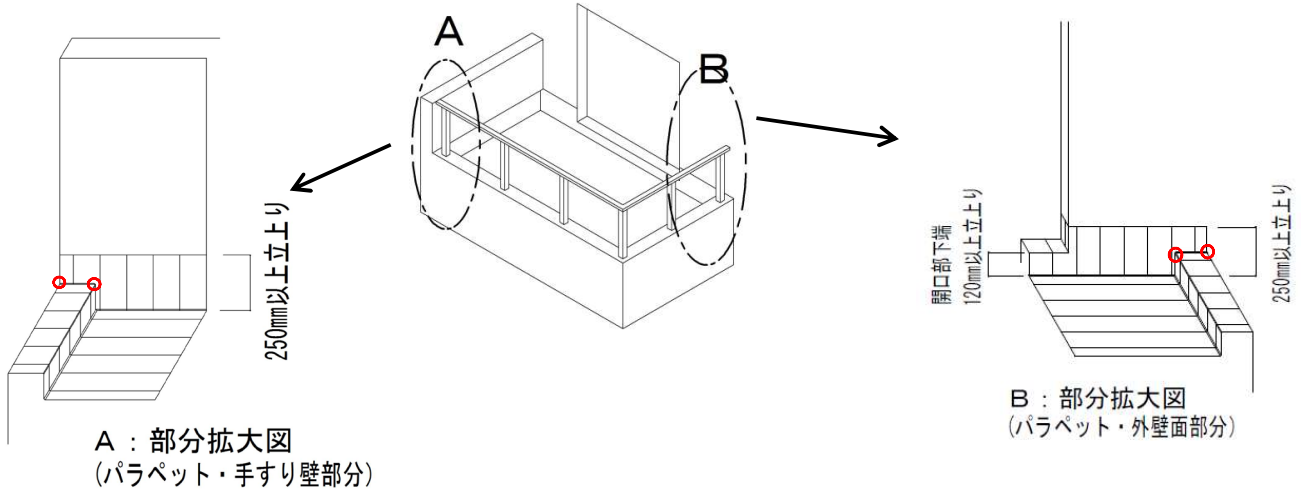


『(形状上) 防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合の防水・止水措置』

仕様 8-① 手すり壁にアルミ製等の手すりを取付ける場合

手すり壁に既製品アルミ製笠木・手すりを取付けるため、形状上やむを得ず、手すり壁部分において防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 8 条 3 項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部階端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部,外壁部取合い部))はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。

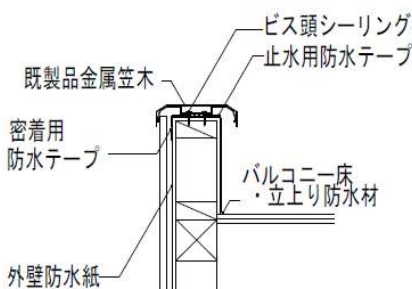


外壁防水紙 (通気構法: 透湿防水シート, 非通気構法: アスファルトフェルト430以上 「パラペット取合い部分のみ表示」)

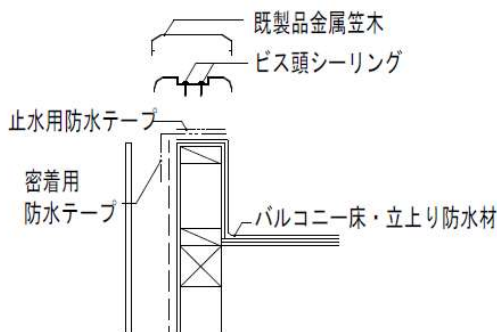
バルコニー床及び立上り防水材 (FRP防水等) 三面交点止水措置用 伸張防水テープ 密着用防水テープ

(密着用防水テープはパラペット外側端部で床・壁防水層と外壁防水紙を連続し密着する。)

納まり図



納まり図・分解図



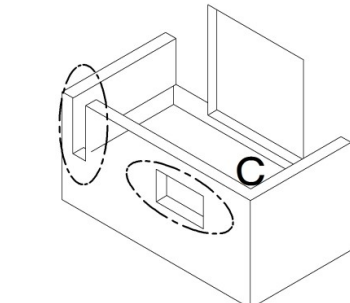
笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する





『(形状上) 防水層の立上り高さが250 mm未満となる場合の防水・止水措置』

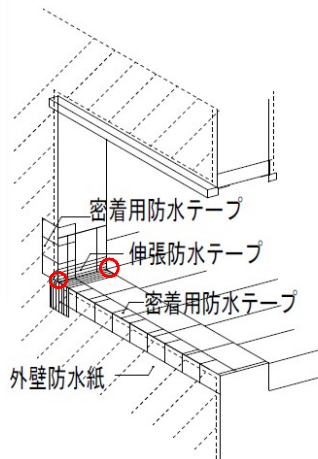
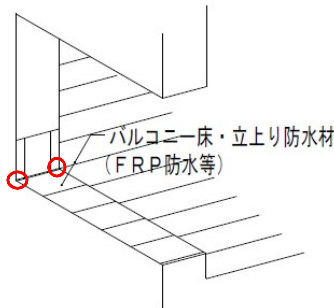
仕様 8-② 手すり壁にスリットや飾り窓を設ける場合

手すり壁にスリットや飾り窓を設けるため、形状上やむを得ず、スリットや飾り窓部分において防水層の立上り高さが250 mm未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第8条3項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. バルコニー床防水材をパラペット天端外部端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
2. 三面交点となる部分(下図○部分(出・入隅部、外壁取合い部)) はピンホールを防ぐため伸長性のある防水テープを施す。

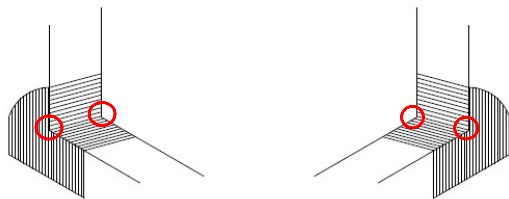


-  バルコニー床及び立上り防水材 (FRP防水等)
-  伸張防水テープ (入隅部分及び出隅、外壁部分取合い
三面交点箇所止水措置を確実に施す。)
-  密着用防水テープ
-  外壁防水紙 (外壁防水紙をパラペット天端部まで立上げ、
床防水材と連続した防水テープにて密着)



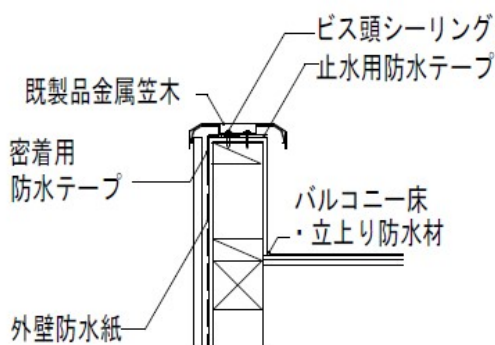
○ ビス留め箇所

飾り窓に化粧金物等を取り付ける場合、固定するビス等が防水層を貫通する部分にはあらかじめ防水テープ等を施し止水する

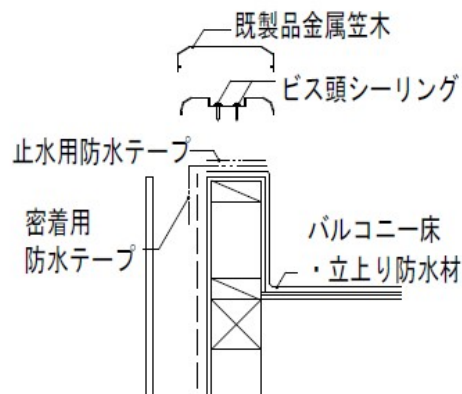


伸張性防水テープ

納まり図



納まり図・分解図



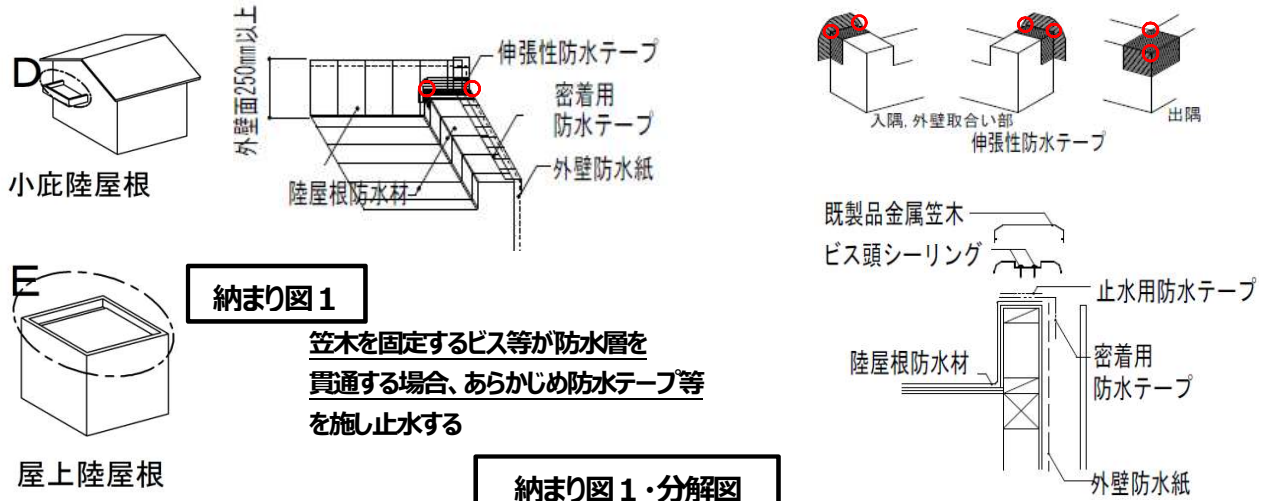
笠木を固定するビス等が防水層を貫通する場合、あらかじめ防水テープ等を施し止水する

『(形状上) 防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合の防水・止水措置』

仕様 8-③ パラペット自体の高さが 250 mm 未満の場合

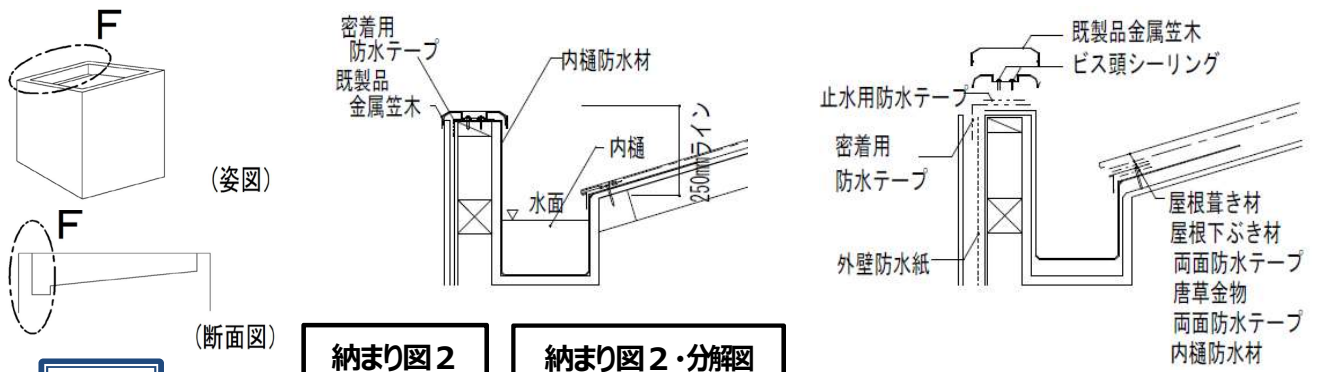
パラペット自体の高さが 250 mm 未満のため、形状上やむを得ず、パラペット部分において防水層の立上り高さが 250 mm 未満となる場合は、以下に示す防水・止水措置を施すことにより、設計施工基準第 8 条 3 項に適合しているものとして保険をお申込みいただけます。

1. 陸屋根防水材をパラペット天端外部階端部まで施し、外壁防水紙と密着させる [納まり図 1]
2. 三面交点となる部分 (下図○部分(出・入隅部, 外壁取合い部)) はピンホールを防ぐため伸張性のある防水テープを施す。



(水下側に内樋を設ける場合 [納まり図 2] 参照)

3. 内樋防水材 (FRP 防水等) は屋根面まで巻き上げ、その上に屋根下葺き材を重ね、防水テープで密着させる。
4. 内樋防水材 (FRP 防水等) をパラペット天端外部階端部まで施し、外壁防水紙と密着させる。
5. 内樋寸法及びドレイン、樋の径及び樋勾配は、地域降雨量の記録から速やかに雨水等を排出させるものとする。



参考

勾配屋根の軒先に谷樋を設ける場合 (防水層の立上り高さ不足として取扱いません)

